

# 学生の自室におけるインテリア小物の利用実態と利用する学生の意識

Actual Condition of Usage of Interior Accessory in College Students' Room and Consciousness of User

長谷川 祥子 \*下村 孝

Shoko HASEGAWA and Takashi SHIMOMURA

\*京都府立大学 生命環境学部

## Abstract

A questionnaire survey was conducted among college students to know how they use and evaluate interior accessories. About 70 percent of the students placed the interior products to decorate their room rather than to use them. They used interior accessories such as “stuffed animal” and “poster” to decorate their room. They evaluated interior accessory positively, because it made their room favorite space and it made them relaxed, while they recognized as a demerit “interior accessories make the room hard to clean.” It was showed that the students also recognized it as living environment being important to the healthy life. It was suggested that the students expected that the comfortableness of living environment would be improved by placing interior accessories. These results suggest that interior accessories may raise the degree of satisfaction to living for environment.

Keywords: インテリア, 学生, 住生活

## 1. はじめに

現代は、ストレス社会と呼ばれ、国民の約半数が日常的に悩みやストレスを抱えているとされる（厚生労働省、平成 22 年国民生活基礎調査）。20 代前半までの世代である生徒・学生も、同様に、学校での人付き合いなどにストレスを感じている（内閣府、平成 20 年度国民生活白書）。大学生と大学院生を対象とした調査（国立大学法人保健管理施設協議会、学生の健康白書 2005）によると、「からだの調子は良い」と回答した学生は 83.4%であったのに対して、「何となく不安になることが多い」は 43.0%、「いつも孤独な感じがする」が 17.5%、さらに「いつも憂鬱である」も 13.4%であり、身体的には健康である学生も、精神面で不安を抱えている実態がうかがえる。そのため、教育や保健および医療の分野において、学生のメンタルヘルスへの関心が高まり、学生のストレスとその対処行動やストレスマネジメントに関する研究が行われるようになってきている。

人にとって、住環境は、そこで過ごす時間が長いことなどから、健康増進に果たす役割が大きいと判断されている<sup>2)</sup>。そして、ストレスからの回復の場の一つでもある。堤ら<sup>3)</sup>は住環境が人の健康に及ぼす影響を探り、環境性能が高い住環境に住まい、満足度が高い居住者は、住環境への満足度が低い居住者に比べ、ストレスが少なく、より健康であることを明らかにした。この結果から、健康維持と増進のためには、住環境への満足度を高めることによって、ストレスを軽減することが有効であるといえる。

4 年生大学の学生はその約 4 割が一人暮らしをしており<sup>4)</sup>、進学を機に一人暮らしを始める学生も少なくない。一人暮らし

の学生は、家族と同居している学生に比べ、疲労自覚症状の訴えが多く、健康と感じる者が少ないことなどが報告されている<sup>5)</sup>。一方、家族と同居および一人暮らしの 18 歳から 30 歳の学生と社会人を対象とした調査によると、一人暮らしの世帯が多い賃貸アパートに暮らす学生は、同居世帯が多い一戸建て持ち家に暮らす者に比べ、住まい内部の改善に努力する傾向がある<sup>6)</sup>。この結果から、一人暮らしの学生は、住環境について関心を持ち、内装に取り組む機会が多いと考えられる。インテリア空間の構成要素は、建築の構造体や床および壁などの固定された要素と、家具や照明器具などの可動の設備、さらにカーテンやマットおよびインテリアグリーンなど内装を仕上げる小物のインテリアアクセサリに分類される<sup>7)</sup>。住宅を新築し、インテリアの要素を決定する際、3 割程度の居住者が床材などの固定的な要素を自分たちで決定したのに対して、照明などは約 6 割、置物や観葉植物は 8 割を超える居住者が自ら決定していた<sup>8)</sup>。一人暮らしの学生が、内装に取り組む際、固定的な要素を自ら決定・変更するのは、借家人の立場であるため、難しいと考えられる。したがって、内装仕上用の小物により本人が好む空間を創出できるのではないかと考えられる。

学生は、居心地のよい居間とは、落ち着く、くつろげる、目に刺激が少ない、自分の好み、温かみを感じる、明るい空間と考えていることが明らかにされている<sup>9)</sup>。また学生の多くは、自室を一人で過ごすための空間として考えており、学習活動の場というよりも、疲れを癒すくつろぎのための空間と位置づけられていると報告されている<sup>10)</sup>。また一方、学生は使い勝手や配置・間取りおよび住み心地を部屋作りで重視し、約半数の学生が自

らの部屋作りに概ね満足していることも報告されている<sup>14)</sup>。自宅のインテリア製品の配置を変えたり、手を加えたりするのが好きだとする女子学生は84%と多数を占め、気に入ったインテリア製品に囲まれていると、心が休まると回答した女子学生は96%に及ぶ<sup>9)</sup>。学生は、自室に生活空間としての機能にあわせて、安らぎの空間としての機能をも求めており、そのために自分好みのインテリア小物で部屋を仕上げようとするものと推測される。

以上の知見を背景として、本研究では、学生によるインテリア小物の評価と自室でのインテリア小物の利用実態を調査し、インテリア小物が学生の住生活に果たす役割を明らかにする。そして、インテリア小物が住環境への満足度向上および健康の維持と増進に資する可能性を探る。

## 2. 研究方法

### 2.1 アンケート調査の概要

2013年7月9日から8月6日に、岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科の学生を対象に、アンケート調査用紙を128部配布し、65部回収した(回収率50.8%)。回答者の所属は、建築・インテリアデザイン専修・コース(29名)、ヴィジュアルデザイン専修・グラフィックデザインコース(18名)およびファッションデザイン専修(18名)であった。調査の項目は、自室のインテリアとインテリア製品、インテリア小物、居心地の良い(精神的に落ち着ける)空間および自身の健康状態等についての計21項目とした(表-1)。

### 2.2 調査方法

調査は、対象者に質問紙を配布して、回答を依頼し、その場での回収する方法と、配布当日以降に設置した回収箱への投函により回収する方法の双方によった。

## 3. 結果および考察

### 3.1 回答者の属性

#### (1) 居住形態

現在の住まいの形態についてたずねたところ、家族や親戚と同居している回答者が53名(81.5%)、アパート等に一人暮らしの回答者が12名(18.5%)であった(表-2)。同居している回答者のうち、戸建住宅に居住し、個室を得ている回答者が40名(61.5%)と最も多く、戸建住宅で、家族と部屋を共用する者は5名(7.7%)、集合住宅で個室に住まう者は3名(4.6%)、同じく集合住宅で部屋を家族と共用する者は4名(6.2%)、無回答が1名(1.5%)であった。

#### (2) 健康状態

現在の健康状態についてたずねた。「かなり悪い」は皆無で、「やや悪い」と回答した学生も少数であり(6.2%, n=65)、ほ

表-1 アンケート調査の項目

アンケート項目	
自室のインテリアについて(4項目)	
Q1	現在の住まいの形態
Q2	自室でもっとも重視する項目
Q3	インテリアに対する関心
Q4	自室のインテリアに対する満足度
インテリア製品について(5項目)	
Q5	自室の目に触れる所に置いているインテリア製品
Q6	存在感があるインテリア製品
Q7	自身の判断で選定したインテリア製品
Q8	思い入れがあるインテリア製品
Q9	飾ることを意図して置いているインテリア製品
インテリア小物について(3項目)	
Q10	インテリア小物の設置の要求度
Q11	インテリア小物のメリット
Q12	インテリア小物のデメリット
居心地のよい(精神的に落ち着ける)空間について(6項目)	
Q13	自室の居心地
Q14	実家に比較した一人暮らしの部屋の居心地
Q15	居心地のよさの要求度
Q16	空間の居心地が暮らしに及ぼす影響
Q17	空間の居心地の要因
Q18	インテリア小物が居心地に及ぼす影響
自身の健康状態等について(3項目)	
Q19	現在の健康状態
Q20	健康面への不安
Q21	進学後の、健康面への不安の変化

表-2 現在の住まいの形態

	住まいの形態	回答数	回答率
同居	戸建住宅：個室あり	40	61.5%
	戸建住宅：共用部屋	5	7.7%
	集合住宅：個室あり	3	4.6%
	集合住宅：共用部屋	4	6.2%
	無回答	1	1.5%
独居	アパート	11	16.9%
	その他(戸建住宅)	1	1.5%
	合計	65	100.0%

とんどの学生が「とても良い」あるいは「まあまあ良い」と回答した(83.1%)。居住形態別に見ると一人暮らしの回答者が「とても良い」と「やや悪い」とする回答が同居の回答者よりも多く、「まあまあ良い」の回答が少ない傾向にある(図-1)。本調査の回答者では、居住形態による健康状態に大きな偏りは見られなかった。

#### (3) 健康面への不安

現在、体や心の健康面に不安があるかたずねた。その結果、同居の47.2%(n=53)の回答者、一人暮らしの58.3%(n=12)の回答者は、「大いにある」もしくは「ややある」と回答し、「あまりない」や「ほとんどない」と回答する学生よりも多かった

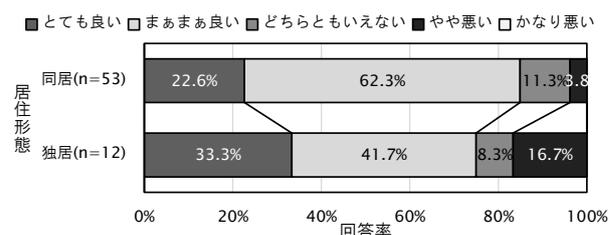


図-1 現在の健康状態

学生の自室におけるインテリア小物の利用実態と利用する学生の意識

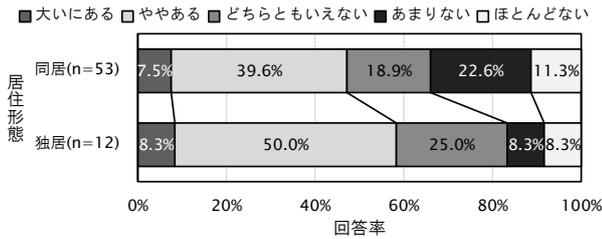


図-2 体や心の健康面に不安があるか

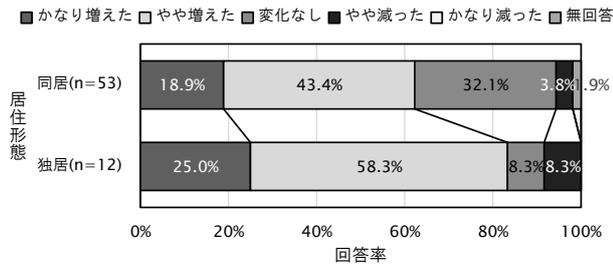


図-3 体や心の健康面への不安の進学後の変化

(図-2)。同居の回答者に比べ一人暮らしの回答者が不安を感じている傾向が見られた。

体や心の健康面に対する不安の進学後の変化をたずねたところ、一人暮らしの回答者は、8割以上が「かなり増えた」あるいは「やや増えた」と回答した(図-3)。同居の回答者に比べ、進学を機に一人暮らしをはじめ、健康面への不安が増えた回答者が多かったと考えられる。

3.2 自室のインテリアについて

(1) 自室で重視する項目

自室でもっとも重視する項目をたずねたところ、「一人でくつろぐ、休息する」が約半数(50.8%, n=65)を占め、込山<sup>10)</sup>に類似する結果となった。居住形態別に見ると、「一人でくつろぐ、休息する」を選択したのは、同居している学生(49.1%, n=53)よりも一人暮らしの学生(58.3%, n=12)が多かった(図-4)。また、同居学生の20.8%(n=53)が「趣味・娯楽」を選択したのに対して、「趣味・娯楽」を選択した一人暮らしの学生は、8.3%(n=12)で、「生活行為(食べる・寝る)」を選択した学生(25.0%)よりも少なかった。生活行為を重視する回答者の割合が、一人暮らしで比較的高かったのは、学生が一人暮らし

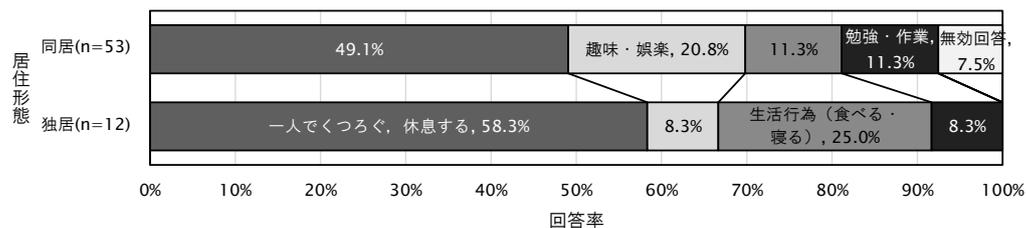


図-4 自室でもっとも重視する項目

表-3 インテリアへの関心

インテリアへの関心	回答数	回答率
かなり関心がある	25	38.5%
まあまあ関心がある	32	49.2%
どちらともいえない	4	6.2%
あまり関心がない	2	3.1%
ほとんど関心がない	2	3.1%
合計	65	100.0%

表-4 自室インテリアへの満足度

自室インテリアの満足度	回答数	回答率
満足	2	3.1%
概ね満足	17	26.2%
どちらともいえない	15	23.1%
やや不満足	19	29.2%
不満足	12	18.5%
合計	65	100.0%

しするアパートやワンルームマンションは、1室で構成されている場合が多く、自室が生活空間として機能しているためと推測された。

(2) インテリアへの関心

インテリアへの関心の程度をたずねた結果、「かなり関心がある」との回答は、38.5%(n=65)、「まあまあ関心がある」が49.2%、「どちらともいえない」が6.2%、「あまり関心がない」が3.1%、「ほとんど関心がない」が3.1%であった(表-3)。回答者の大半がインテリアに関心をもっていると判断できた。

(3) 自室インテリアへの満足度

自室インテリアに対する満足度をたずねた結果(表-4)、「やや不満足」の回答がもっとも多く、(29.2%, n=65)。次いで、「概ね満足」(26.2%)となった。また、「満足」と「概ね満足」を合わせた回答(29.2%)よりも、「不満足」と「やや不満足」を合わせた回答(47.4%)が多くなり、今回の調査対象となった学生は、自室インテリアに対して不満を持つ学生の比率が高いと判断できた。部屋作りに概ね満足している学生が約半数を占めるとの先行研究<sup>11)</sup>とは異なる傾向を示した。

3.3 自室のインテリア製品について

(1) 自室内にあるインテリア製品

自室内にあるインテリア製品について、まず、収納せずに、目に触れるところに置いているインテリア製品をたずねた。その結果、回答者の3割以上が置いていると回答したインテリア

製品を表-5に示す。ラックやシェルフなどの「収納棚」や「ベッド」、「ゴミ箱」は、同居・一人暮らしともに置かれている割合が高かった。同居している回答者が自室に置いている比率は、「デスク」が71.7%と最も多いが、自室に「デスク」を置く一人暮らしの回答者は、41.7%と半数以下であった。同居世帯の自室に置かれている「デスク」は、学習机と推測された。同様に、「ぬいぐるみ」は、同居で約6割の回答者が置いたのに対して、一人暮らしでは3割弱にとどまり、同居の自室に、幼少期の名残の品として置かれているものと推測された。一方、一人暮らしの自室では、同居の自室に比べ、「ローテーブル・座卓」と「テレビ」が置かれる比率が高かった。一人暮らしの自室には1室のみで機能する生活空間としての特性が現れた結果だと考えられる。

(2) 存在感があるインテリア製品

次に、目に触れるインテリア製品のうち、存在感があり、目立っているインテリア製品についてたずねた。その結果、大型の家具である「ベッド」が、もっとも存在感があると認識された(図-5)。次いで、「デスク」と「ローテーブル・座卓」および「テレビ」が目立つインテリア製品として挙げられ、家具や家電に存在感が見出されていたと判断した。「収納棚」はもっ

表-5 自室に置かれているインテリア製品

インテリア製品	同居(n=53)	独居(n=12)	合計(n=65)
収納棚	36 67.9%	10 83.3%	46 70.8%
デスク	38 71.7%	5 41.7%	43 66.2%
ベッド	34 64.2%	9 75.0%	43 66.2%
ゴミ箱	34 64.2%	9 75.0%	43 66.2%
パソコン	30 56.6%	8 66.7%	38 58.5%
カーテン	30 56.6%	8 66.7%	38 58.5%
椅子	28 52.8%	6 50.0%	34 52.3%
ぬいぐるみ	31 58.5%	3 25.0%	34 52.3%
布団	26 49.1%	8 66.7%	34 52.3%
枕	26 49.1%	6 50.0%	32 49.2%
冷暖房機器	23 43.4%	8 66.7%	31 47.7%
扇風機	23 43.4%	7 58.3%	30 46.2%
クッション	24 45.3%	5 41.7%	29 44.6%
置き時計	19 35.8%	9 75.0%	28 43.1%
ローテーブル・座卓	17 32.1%	10 83.3%	27 41.5%
ティッシュボックス	19 35.8%	6 50.0%	25 38.5%
壁掛け時計	23 43.4%	2 16.7%	25 38.5%
シーリングランプ	18 34.0%	7 58.3%	25 38.5%
かばん	22 41.5%	1 8.3%	23 35.4%
鏡	17 32.1%	4 33.3%	21 32.3%
テレビ	11 20.8%	10 83.3%	21 32.3%

とも多く自室に置かれていたが、存在感を感じる割合は、26.5%であった。また同じく、「ゴミ箱」は置かれている割合は66.2%と高いが、目立たないインテリア製品と認識されていることが

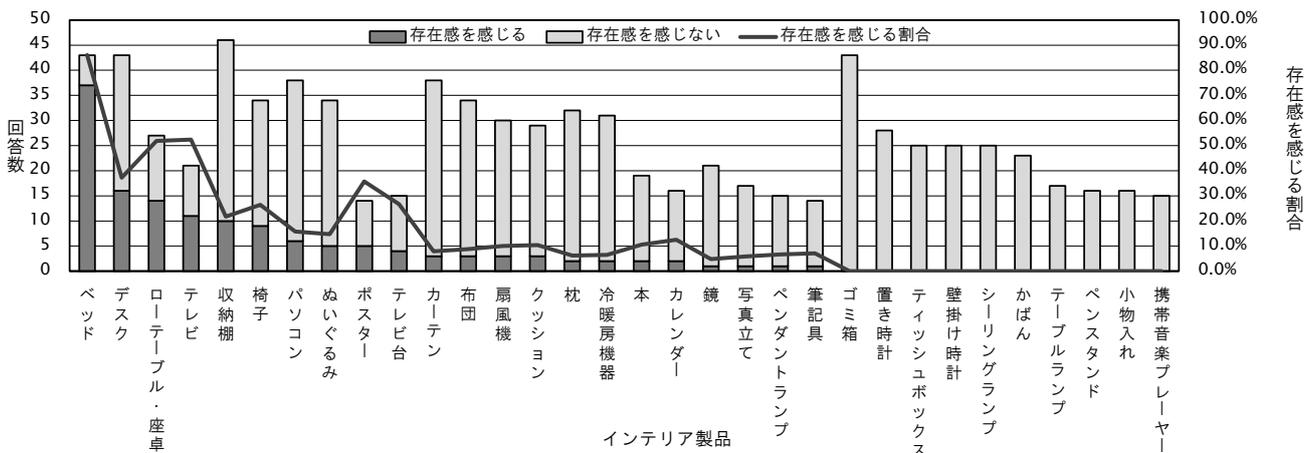


図-5 自室で存在感があるインテリア製品

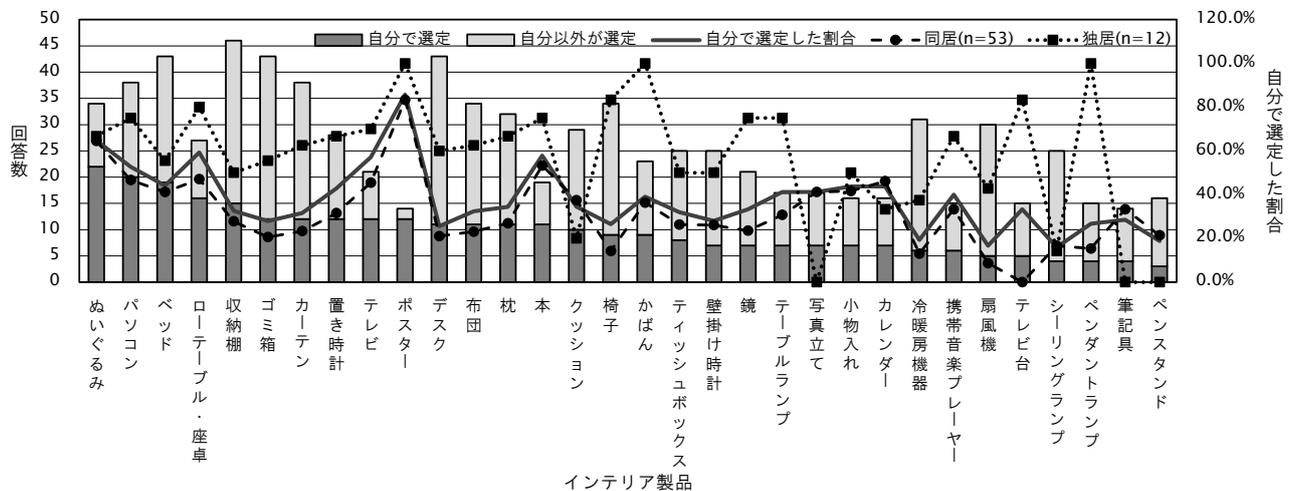


図-6 自分の判断で選定したインテリア製品

学生の自室におけるインテリア小物の利用実態と利用する学生の意識

わかる。一方、「ポスター」は自室にあるとの回答は少なかったが、存在感を感じる割合は、「テレビ」、「ローテーブル・座卓」、「デスク」の家電や家具に次いで高く、容積は小さいものの目に触れやすく、目立ちやすいインテリア製品と判断されていたといえる。

### (3) 自身の判断で選んだインテリア製品

自分の判断で選び、自室に置いているインテリア製品をたずねたところ、「ぬいぐるみ」がもっとも多かった(図-6)。自室に置かれていると回答のあったインテリア製品は108あり、その内、回答者自身が選定したのは、平均で43.7%であった。自室に置かれているインテリア製品の上位32を、居住形態別に見ると、自身で選定した割合の平均は、一人暮らしの回答者(58.9%)が、同居の回答者(31.9%)よりも、割合が高かった(図-6)。自室に置いているインテリア製品のうち、自分で選定した割合がもっとも高かったのは、「ポスター」(85.7%)であった。

### (4) 思い入れのあるインテリア製品

思い入れのあるインテリア製品も、「ぬいぐるみ」がもっとも回答数が多かった(図-7)。また、自室にある「ポスター」や「写真立て」に思い入れを感じている回答者の割合が高かった。自身での選択が思い入れに影響を及ぼしていると推測できる。

### (5) 飾ることを意図して設置しているインテリア製品

実用の目的以上に「飾る」ことを意図してインテリア製品を置いている回答者は、67.7%であり、飾っていないと回答した回答者は、12.3%で、その他、20.0%の回答者は無回答であった(n=65)。飾られているインテリア製品は、「ぬいぐるみ」がもっとも多く、「ポスター」や「写真立て」と続いた(図-8)。飾る意図をもって自室に持ち込まれる割合が最も高いのは、「ポスター」であった。「ぬいぐるみ」に次いで、思い入れを持つ回答者が多かったパソコンや、テレビなどの家電、椅子やローテーブルなどの家具は、実用目的で自室に置かれており、飾ることを意図したものは多くなかった。回答数は少なかったが、写真(5名)や帽子(3名)、キャンドル(3名)、置物(3名)なども飾る目的で置かれていた。

### (6) インテリア製品を飾る目的と満足度

インテリア製品を飾る主な目的は、「自分好みの部屋にするため」と「それ自体を気に入ったから」であった(表-6)。

飾りとしておいていることに対する満足度に対する質問では、「満足」の回答が半数以上を占め、「不満足」の回答は皆無であったため、満足度が高いと判断された(表-7)。

一方、飾る意図でインテリア製品を置いている回答者8名に、その理由をたずねたところ、「時間や金銭的余裕がない」

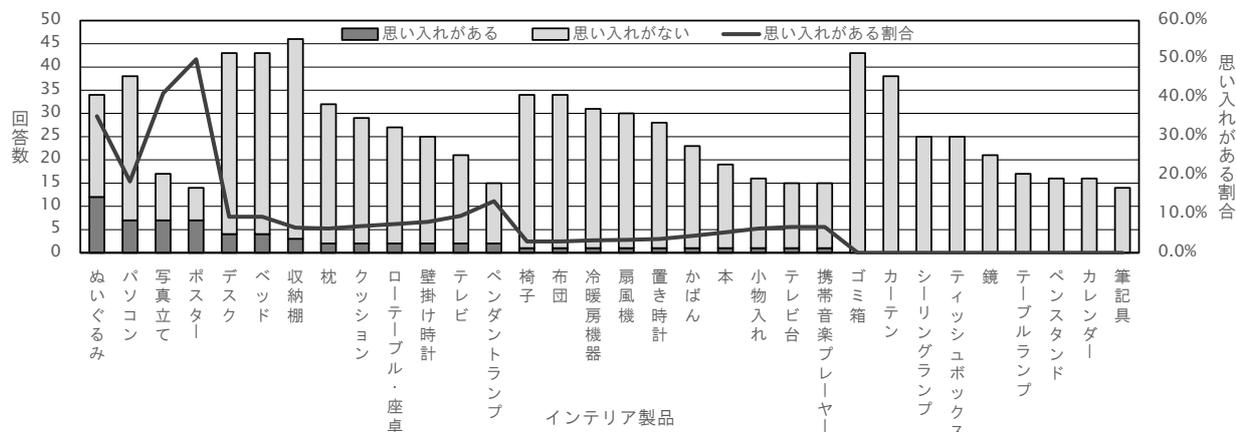


図-7 思い入れのあるインテリア製品

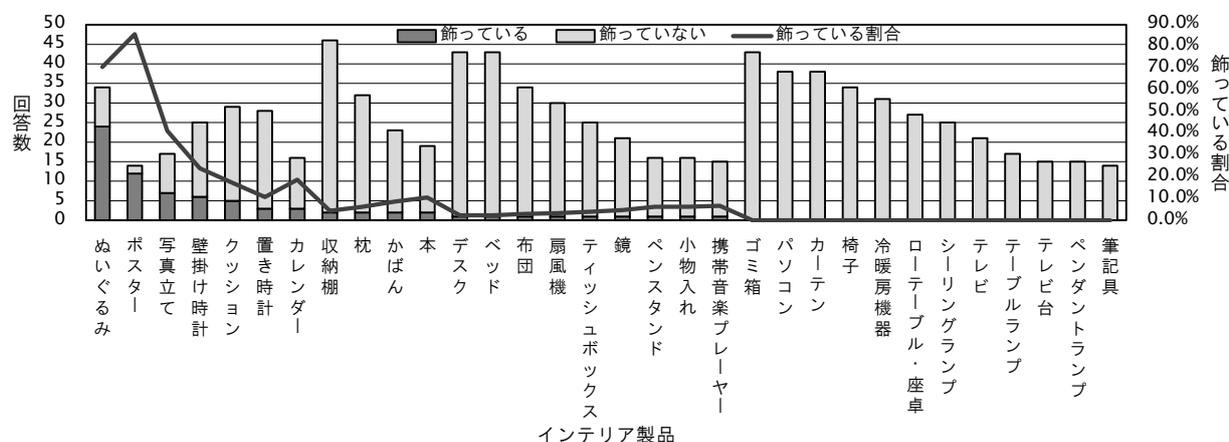


図-8 自室に飾っているインテリア製品

学生の自室におけるインテリア小物の利用実態と利用する学生の意識

表-6 インテリア製品を飾る目的

飾っている目的	回答数	回答率
自分好みの部屋にするため	41	36.9%
それ自体を気に入ったから	33	29.7%
もらいもの・付録	12	10.8%
空間にアクセントをつけるため	9	8.1%
自分の作品を飾るため	7	6.3%
特に理由はない	7	6.3%
その他	2	1.8%
合計	111	100.0%

表-7 飾ることへの満足度

満足度	回答数	回答率
満足	59	53.2%
おおむね満足	39	35.1%
どちらともいえない	10	9.0%
やや不満足	2	1.8%
不満足	0	0.0%
無回答	1	0.9%
合計	111	100.0%

表-8 飾っていない理由 (n=8)

飾っていない理由	回答数	回答率
時間や金銭的余裕がない	4	50.0%
飾るスペースがない	3	37.5%
飾りたいと思わない	2	25.0%
好みのものが見つからない	2	25.0%
どういうものがいいかわからない	2	25.0%
特に理由はない	1	12.5%
その他	1	12.5%

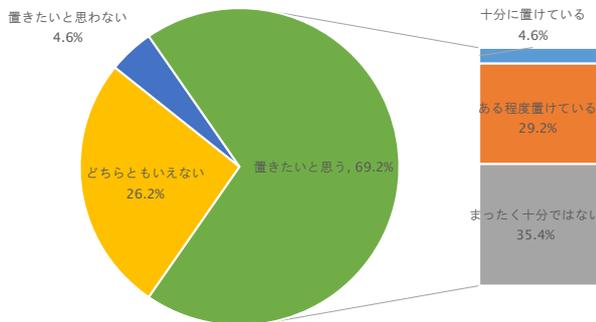


図-9 インテリア小物を飾りたいと思うか (n=65)

とする回答が多かった (表-8)。

3.4 インテリア小物について

(1) インテリア小物を置きたいと思うか

写真立てや花瓶などのような「飾られる」インテリア製品を「インテリア小物」と定義し、自室にインテリア小物を置きたいと思うかたずねた。その結果、回答者の 69.2% (n=65) が「置きたいと思う」と回答した (図-9)。「置きたいと思わない」とした回答者は、4.6%と少数であった。しかし、「置きたいと思う」回答者に、現在十分にインテリア小物を置くことができているかたずねたところ、「十分に置けている」の回答は全体の 4.6%に過ぎず、「全く十分ではない」との回答がもっとも多か

表-9 インテリア小物を置くことによるメリット (n=65)

メリット	回答数	回答率
好みの空間になる	56	86.2%
和む・癒される	44	67.7%
空間のアクセントになる	23	35.4%
にぎやかな雰囲気になる	15	23.1%
空いている空間を満たす	10	15.4%
メリットはない	3	4.6%
すっきりしすぎない	2	3.1%
その他	2	3.1%

表-10 インテリア小物を置くことによるデメリット (n=65)

デメリット	回答数	回答率
掃除がしにくくなる	52	80.0%
部屋が狭くなる	32	49.2%
ごちゃごちゃした雰囲気になる	32	49.2%
好みの空間にならない	2	3.1%
他のものが引き立たない	2	3.1%
落ち着かない	2	3.1%
デメリットはない	0	0.0%
その他	0	0.0%

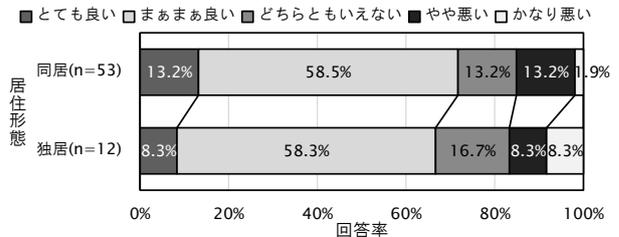


図-10 現在の自室の居心地

った (35.4%)。インテリア小物を設置したいという思いは、満たされていない場合が少ないことが示された。

(2) インテリア小物のメリットとデメリット

インテリア小物を置くことによって得られるメリットをたずねた結果、「好みの空間になる」の回答が 86.2% (n=65) でもっとも多かった (表-9)。次に多くの回答を得た項目は、「和む・癒される」の 67.7%であり、その他の項目に比べ比率が高かった。一方、デメリットをたずねた質問には、8割が「掃除がしにくくなる」と回答した (表-10)。また約半数が「部屋が狭くなる」ことや「ごちゃごちゃした雰囲気になる」と回答し、この上位 3 項目がインテリア小物の主要なデメリットとして挙げられた。「デメリットはない」の回答数は皆無であり、インテリア小物を置きたいと思っている回答者もデメリットを感じていることが示された。

3.5 空間の居心地について

(1) 自室の居心地

現在の自室の居心地についてたずねたところ、「まあまあ良い」とする回答が半数以上を占め (58.5%, n=65)、居住形態別に見ても、大きな差は見られなかった (図-10)。一人暮らしの

学生の自室におけるインテリア小物の利用実態と利用する学生の意識

回答者に、実家の自室と比較した現在の自室の居心地をたずねた結果、「かなり悪い」と「やや悪い」よりも「まあまあ良い」と「とても良い」の回答数が多く、実家に比べて居心地が良いと判断していることが窺われた(表-11)。

(2) 居心地の良さの要求度

自室に居心地の良さを求めるかたずねた。その結果、ほとんど(95.4%)の回答者が「求める」と回答し、「求めない」とする回答は皆無であった(表-12)。

(3) 空間の居心地が暮らしに及ぼす影響

居心地のよい(精神的に落ち着ける)空間で生活することが健康的な暮らしに役立つと思うかたずねた。その結果、90.8%の回答者が「思う」と回答した(表-13)。この結果は、水石ら<sup>2)</sup>の、20代から60代以上までの一般生活者の85%以上が、健康増進にとって住宅の役割が重要であると認識しているとの調査結果を支持し、20歳前後の学生も、健康的な暮らしに、住環境が重要であると感じているとの知見を付加するものと言える。

表-11 実家の自室と比較した現在の自室の居心地

実家の自室と比較した自室の居心地	回答数	回答率
とても良い	2	16.7%
まあまあ良い	4	33.3%
どちらともいえない	3	25.0%
やや悪い	2	16.7%
かなり悪い	1	8.3%
合計	12	100.0%

表-12 自室に居心地の良さを求めるか

自室に居心地の良さを求めるか	回答数	回答率
求める	62	95.4%
どちらともいえない	3	4.6%
求めない	0	0.0%
合計	65	100.0%

表-13 健康的な暮らしに役立つと思うか

健康的な暮らしに役立つと思うか	回答数	回答率
思う	59	90.8%
どちらともいえない	6	9.2%
思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
合計	65	100.0%

表-14 居心地の良さに影響する要因 (n=65)

居心地に影響する要因	回答数	回答率
部屋の広さ	44	67.7%
温熱環境	40	61.5%
照明や日射などの光環境	37	56.9%
室内の色彩	37	56.9%
インテリア製品	35	53.8%
室内の空気	34	52.3%
音環境	29	44.6%
内装の素材	25	38.5%
窓からの景色	21	32.3%
同居人	15	23.1%
その他	1	1.5%
わからない	0	0.0%

(4) 空間の居心地に影響する要因

居心地の良さに影響する要因について、複数回答でたずねた。その結果、「部屋の広さ」が67.7%(n=65)でもっとも回答が多く、「温熱環境」、「光環境」、「室内の色彩」が62%~57%の回答率であった(表-14)。53.8%の回答者が、「インテリア製品」は居心地の良さに影響を与えると回答した。

また、自室にインテリア小物を置くことで居心地が良くなると思うかたずねた結果、「思う」の回答が72.3%(n=65)だった。居住形態別に見ると、一人暮らしの回答者が同居の回答者よりも、インテリア小物による居心地への効用を期待している傾向がうかがわれた(図-11)。インテリア小物を置くと、居心地が良くなると「思う」と回答した47名に、そのための条件を複数回答でたずねた。その結果、ほとんどの回答者がインテリア小物が「自分の好みのもの」であることと回答し、次いで、「なじみ・思い出のあるもの」となった(表-15)。美しい外観や機能的に優れたものよりも、自分の好みでなじみのあるものが、重視されていることが示された。

4. まとめ

学生を対象に、自室インテリアおよびインテリア小物の利用について、アンケート調査を行った。家族等と同居している学生の自室には、幼少期から使用していると考えられる「デスク」がもっとも多く置かれていた。一人暮らしの学生の自室では、「収納棚」と「ローテーブル・座卓」および「テレビ」などの一室居住の機能を満たすインテリア製品が多かった。

約7割の学生が、実用目的以上に飾ることを意図してインテ

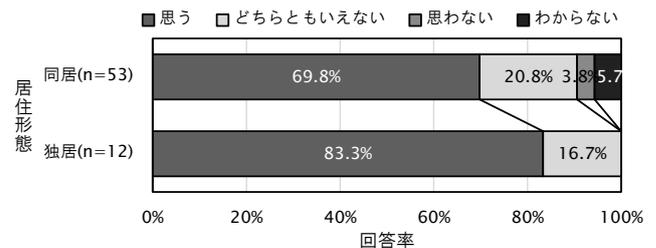


図-11 インテリア小物を置くと居心地が良くなると思うか

表-15 居心地が良くなるインテリア小物の条件 (n=47)

居心地が良くなるインテリア小物	回答数	回答率
自分の好みのもの	45	95.7%
なじみ・思い出のあるもの	26	55.3%
機能的に優れたもの	19	40.4%
美しい外観のもの	18	38.3%
身の回りの環境をよくするもの	17	36.2%
好みの素材のもの	16	34.0%
自然が感じられるもの	15	31.9%
品質の良いもの	9	19.1%
わからない	0	0.0%
その他	0	0.0%

リア製品を置いていた。飾られるインテリア小物としては、「ぬいぐるみ」や「ポスター」などが多く回答された。自室インテリアへの満足度は、比較的低かったが、飾ることを意図しているインテリア製品に対する満足度は、高かった。飾るためのインテリア小物を置きたいと考えている学生は、約7割に及んだが、現在、思い通りに置けている回答者は、1割にも満たず、置きたいという思いが十分には満たされていないことが明らかとなった。インテリア小物を置くことによって、「好みの空間になる」ことや「和む・癒される」ことがメリットとして認識される反面で、「掃除がしにくくなる」ことなどがデメリットとして認識されていた。また、先行研究<sup>2)</sup>と同様に、健康的な暮らしには、住環境が重要であると認識されていることが明らかとなり、学生はインテリア小物を置くことにより、住環境の居心地が良くなることを期待していると判断できた。その傾向は、家族と同居している学生よりも一人暮らしの学生で強く見られた。居心地が良くなるインテリア小物の条件としては、「自分の好みのもの」や「なじみ・思い出のあるもの」が挙げられた。

以上の結果から、学生は、インテリア小物に住環境の居心地をよくするものとしての期待を持ち、半数以上が置きたいと考えているため、インテリア小物には、学生の住環境の満足度向上に資する可能性があるかと推測できた。

#### 参考文献

- 1) 金子智栄子・関根美佳 (2006) : 女子大学生のストレスに関する研究 : 文京学院大学人間学部研究紀要 18(1), 67-90
- 2) 水石仁・堤仁美・田辺新一・坊垣和明・秋元孝之・村上周三・高口洋人 (2009) : 居住環境における健康維持増進に関する研究 (その2. 健康増進における住宅の役割に関する生活者の認識調査) : 日本建築学会大会学術講演梗概集, 993-994
- 3) 堤仁美・長澤夏子・加藤龍一・松岡由紀子・秋山友里・秋元孝之・田辺新一 (2013) : 住環境満足度と居住者のストレス・健康感の関連分析 : 日本建築学会環境系論文集 78(686), 359-366
- 4) ベネッセ教育研究開発センター : 大学生の学習・生活実態調査報告書 : <[http://benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku\\_jittai/hon/index.html](http://benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jittai/hon/index.html)>, 2013.01.17 更新, 2013.01.17 参照
- 5) 吉岡有紀子・齋藤沙織 (2011) : 女子大学生の居住形態と食生活、食物摂取状況、健康状態との関連 : 相模女子大学紀要 B 自然系 75, 45-56
- 6) 日本流行色協会編 (1987) : Living Data view : 日本流行色協会, 221pp
- 7) 小宮容一・加藤力・片山勢津子・塚口眞佐子・ペリー史子・西山紀子 (2009) : 図解テキストインテリアデザイン : 井上書院, 150pp
- 8) 今井範子・中村久美 (1994) : 住み手によるインテリアの実態とその意識に関する研究その1. インテリア専門家インテリアコーディネーター等との関わりとその評価 : 日本建築学会大会学術講演梗概集, 125-126
- 9) 佐藤仁人 (2011) : 居間のインテリアにおける色彩の居心地に及ぼす影響 学生層と主婦層との比較による評価構造の分析 : 日本建築学会環境系論文集 76(668), 897-902
- 10) 込山敦司 (2008) : 学生のインテリアデザイン作品にみる自室インテリアに対する意識 : 日本建築学会大会学術講演梗概集, 1499-1500
- 11) 澤島智明 (2012) : 大学生の家庭科「住」分野とインテリアに対する意識 : 佐賀大学文化教育学部研究論文集 17(1), 89-97

(提出日 平成26年1月6日)